

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800289		
法人名	医療法人社団壮志会		
事業所名	グループホームゆうゆう 1F		
所在地	〒859-4752 長崎県松浦市御厨町397番地10		
自己評価作成日	平成21年12月12日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療との連携の体制が整い、利用者の健康管理や緊急時の対応が迅速である。 小中学生の通学時間に合わせ玄関先に立ち、「おはよう、いってらっしゃい」の挨拶を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体であり医療面での『安心』を入居者と家族、ホーム職員に提供されている。 「職員の明るさが自慢です」と管理者の言葉が印象的である。通学路に面しているため時間帯に合わせた玄関先での挨拶活動を継続されており、平成20年から地域の中学校の「職場体験学習」を受け入れられている。学生が製作した折り紙動物を「折り紙動物園」としてホーム内に展示し、学習期間終了後も話題の種として活きていた。今後も前向きな姿勢でサービスの質の向上に向けた努力を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念の確認を行い、地域の住民としてできる取り組みを話し合い実践に向けている。ホーム内にも理念を掲示し、また、お便りにも毎回入れ、ご家族や地域の人たちへも理解してもらえるよう努めている。	基本方針を常に念頭に置いて介護の実践をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	戸外に出掛けた時は必ず挨拶している。小中学生の登校時間帯に道端に立ち「おはよう」の声掛けを行っている。地域の方が多く集まる場所へお便りの掲示や地区の回覧板にも入れて貰っている。中学生の職場体験学習の受入れをしている。	近隣の派出所・薬局・市役所・小中学校や他のグループホームなどへ、当ホームのお便りなどを掲示し、地域行事にも参加するなど地域との交流を積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習の受入れを積極的に行っている。その際に利用者の不安や混乱を招かないよう事前の打ち合わせの時に認知症の人との接し方等も伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を始めてまだ2年目だが、地域の人やご家族にホームの取り組みを理解して貰い助言を頂いている。これからも継続して行き、サービスの向上に生かしていきたい。	2ヶ月に1回開催されている。今まで報告や行事予定が議題になっていたが、今後はホーム独自の行事に短時間でも参加してもらう事で運営推進会議を活かした取り組みとされる姿勢が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を行うようになってから、市の担当者の方にもホームの方からの情報提供が行えるようになった。	福祉関連の定期的な手続きや、運営推進会議に参加してもらい、連携がとりやすくなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロに取り組み、ホームとしても実践している。拘束を行わないことでのリスクを家族へ説明し理解して貰っている。やむを得ず行う場合、経過観察や再検討を行うようにしている。	身体拘束は精神面や行動にまで及ぶことを理解されている。ホームが国道と線路に挟まれた場所にあるためリスクはあるが、玄関の施錠はしないで見守り対応をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で心理的な虐待になっていないかお互いに注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に職員全員が参加できているわけではないが、研修に参加した職員が報告を行っている。万全な支援体制とはいえないが理解はできている。今まで活用された利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には十分時間をとって行っている。介護報酬変更の際には事前に説明を行い、同意を得た上で請求している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が職員に要望や意見等を気軽に言える雰囲気作りを心掛け利用者の最近の近況報告などをし、利用者本人や家族の気持ちを引き出せるようにしている。	運営推進会議への家族出席はされているが、発言は少ない。隣接の同法人のホームの運営推進会議開催と同日に時間をずらして開催されている。	家族の意見を表出するための手段として、ホームの行事に家族参加も多い事を活用し、話しやすい雰囲気作りをすることでサービスの質向上になる事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も介護職員を兼務しているので、現場職員としての意見を代表者にしっかりと伝えることができる。	職員の研修は長崎市内や宿泊を必要とする場合を除き、できるだけ出席できている。職員の休憩時間が交代でも取れない勤務体制ではあるが、職員は頑張られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり守られ、健康診断も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の夜勤は数回他の職員と共に行い、最初の一人で行う夜勤の時は、遅出が長く残っているなどサポートしている。研修会にはなるべく参加するようにし、研修報告書の作成や職員会議等での発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要性は感じているが、他のグループホーム職員との交流の機会が少ない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と会い、不安を受け止め安心してサービスを受けて貰えるよう関係作りに努めている。日中の体験で来て貰うこともできるが、今年度は緊急が多く出来ていない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場にたつて話を聞き、家族の気持ちを受け止めるよう心掛けています。家族が本人をどうしてあげたいのか話を聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人または家族の要望や困っていること、必要なことに対してできることは迅速に行い、困難な場合には他の事業者と連絡したり、法人のソーシャルワーカーに相談する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすもの同士として共感し、信頼されるよう努めている。人生の先輩なので教えていただくことも多い。「ここはわたしがしているから、あっちしていいよ」と言われることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に生活の様子を伝えたり、家族と情報交換を行っている。利用者とあまりうまくいってないような家族に対しても、こちらからの情報はなるべく提供するようにしているが、あまり踏み込まずにいる所もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自分の行きつけの美容院に出掛けたり、なじみの店への買い物等の支援をしている。友人にハガキを出される方もおり、継続的な交流ができるように支援している。	月2回、隣のグループホームで習字教室があり、希望があれば参加してもらい、入居者の習字を壁に展示されている。お墓参りや法事・近親者の葬式などに短時間でも希望があれば対応されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や相性を把握し、集団の中で孤立しないように支援している。自分から話すのが苦手な人には、職員が話すきっかけを作ることなどで会話が弾むこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、自宅に戻った方が、時々ホームを訪れる。入院になり退所された方のお見舞いに行ったり、亡くなった方のお葬式に行ったこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や行動、表情より汲み取り、把握し、希望に沿うことができるよう職員間でも良く話し合っている。意思の疎通が困難な方には家族と話し検討している。	日々の業務に追われる状況の合間や個別の外出支援時、入浴介助、夜勤帯などで、入居者の思いを汲み取る努力がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族に尋ねている。入居後、日々の会話の中で色々な事が見えてくることもある。ご家族はあまり知らないことでも、ご面会に来られた友人等からお話しが聞けることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを把握している。その人のできることを無理強いにしないよう職員も一緒に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や、家族の思いを取り入れた介護計画を作成している。月1回の職員会議ではもちろんだが日々の中でも職員同士で意見交換を行っている。	個別の日課計画票や週間サービス計画と、日々の生活記録がある。記録する種類が多く、記録のための時間でケアがおろそかにならないように記録の短縮化に向けて取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が情報を共有し、ちょっとした気付きも個別記録に記入するようにしている。それに基づいた評価見直しを行い、サービスにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、定期的な受診以外にも通院介助を行っている。利用者のニーズに応じた柔軟なサービスをとは思っているが、マンパワーが足りず多機能化とまでは行かない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員さんとの意見交換ができる。避難訓練に地区の消防団にも来てもらい、もしもの時は消防署より早く駆けつけることができると、心強い言葉を頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や近隣の病院への受診は、主に職員が付き添っている。その後は家族へ結果を連絡している。家族同行で受診された時は、診療の結果やお薬の説明を聞き、職員全員で把握するよう努めている。	かかりつけ医は母体の病院医師が殆どであるため、訪問看護との連携は密になっており、万全の体制をとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されていないので、異常に気づいたら早めの受診をと職員間で決めている。週1回の看護師訪問があるので、医療面での相談をしたり助言を頂き、医師との繋がりもお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援に関する情報を提供している。入院期間中は看護師に定期的に相談し、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化見取りに関する指針を定め、説明をしている。本人や家族の意向を踏まえ、対応できる限りのケアを行うようにしている。	入居申し込み時に、重度化された場合の「事前確認書」を家族及び本人に説明し、署名捺印をとられており、家族は医療面での安心を確実に把握されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の訓練等は職員全員が受けている。定期的に行っているわけではないので実践に生かせるか不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地区の消防団の協力を得て、避難通報消火訓練を行っている。	消防署指導の下に年1回、自主訓練として1回は夜間想定で訓練をされている。地区の消防団も近くにあり、近隣住民の協力を得て避難訓練など行われている。	自然災害時の対策は想定されておらず、備蓄や入居者の個別ファイルを作成されるなど職員と話し合いを持ち、検討していきたいことに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーを守り、年長者として尊重した言葉掛けを行うよう心掛けてはいるが、つい馴れ合いになってしまうこともある。不潔行為のある利用者への声掛けも、他入居者に気付かれないうさげない言葉掛けを行っている。	忙しい時は意識しないで入居者の尊厳を損なう言葉使いに気づいた時には、お互いにすぐに注意しあうように、職員全員が意識付けがあり実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう心掛けてはいるが、職員側の押し付けになっていることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた暮らしの支援を心掛けている。まだ、職員側の都合でその日を動くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望の美容室でカットやカラーができるよう支援している。自分でおしゃれができない利用者にはその人らしい服装等を職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを見える所に書き出し、食事を楽しくにできるよう支援している。季節にあった食事やおやつなど入居者の要望で作ることもある。準備や後片付けなど利用者と共に行っている。	ユニット別に違う献立表はおおよそ決まっている。行事食や百歳のお祝いなども取り入れ、近所から新鮮な野菜や新米、季節を感じる食材(ツワや干し柿用の柿)の差し入れなどがあれば、希望を聞いて変更するなど、アットホームな食事を楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特にカロリー計算はしたことないが、栄養バランスを考え献立を決めている。好きな食べ物嫌いな食べ物を把握し、どうしても食べることができない場合、特別メニューを出すこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせ、毎食後、洗面所やテーブルで行っている。歯磨きが嫌いな人もいるが、口腔清潔のためにも無理強いしない程度に声掛けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた排泄援助を行っている。尿意があまり分からない人には時間を見て介助し、失禁がないように支援している。	昼間のトイレ誘導で排泄リズムを把握し、夜間のトイレも時間や睡眠を妨げないようにトイレ誘導やオムツ交換、ポータブルトイレを使うなど個別支援を実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため食材やメニューを考えている。テレビ体操や歩行練習など体を動かしたり、水分摂取にも気をつけている。便秘が続く場合は下剤を使用することもあるが、かかりつけ医から処方された薬と使用量である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた時間で入浴支援を行いたいのが、職員の揃っている日中に行っている。外出や面会のある時など翌日にしたりなど臨機応変に対応している。体を洗う前に浴槽につかり温まりたい人は順番を最後にするなど工夫している。	最低週2回の入浴を基本に、入浴拒否がある方には清拭や気分が向いた時に入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は起きて活動するようにしている。一人一人の生活習慣に合わせ就寝時間は自由にされている。足を下ろして座ってばかりいるとむくむので、足乗せを準備したり、時々横になるなど個別に休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容が分かるよう個別にファイルし、職員がいつでも見られるようにしている。変化が見られる時は、随時医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔から絵を描くことが好きだった人や手紙を書くことが好きだった人など楽しみを継続できるように支援している。リハビリになるからとお盆拭きやモップ掛けなど自分から申し出てくださる人がいるので願っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか遠くまでは行けないが、外庭に出て草花の世話をしたり、近所に買い物に出るなど支援している。	玄関の国道に面していない場所に置かれたプランターで花を育てたり、草取りをする方もいる。買い物希望者には個別支援をされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金としてホームで管理しているお金とは別に、ご家族の同意を得て小額のお金を自分で管理されている。外出時の支払いや面会に来た孫、ひ孫への小遣いなど今までのように使い、お金を手にしていることで安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使用し、プライバシーに配慮し自室でゆっくりと話すことのできるよう支援している。電話より手紙を好む方には、一緒に郵便局に出掛けハガキの購入や投函をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど皆が一同に使う空間は自然の太陽光が差し込み、外が見渡せ季節感を味わうことができる。入居者にあわせテレビの音や電灯の明るさにも配慮している。	明るい共有空間の居間で一日を過ごされたり、思い思いの時間を大切にされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングが一体的なつくりになっており、プライベートな時間を作るのは難しい。他者の目が気にならないように、ソファから背になるところでテーブルに座り、絵を描いたり、手紙を書いたりできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットやロッカー等が備え付けられており、入居時に私物を持ち込む方は少ないが、暮らし続けているうちに暖簾や時計、カレンダーや置物、家族の写真など少しずつ増え、それぞれの落ち着ける自室ができています。	入居が長い方は持ち込みの品が多くなっている。季節に応じた衣類の入れ替えには家族が対応されており、寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況等に合わせてテーブルやソファの位置を変えたりと工夫している。それによって新たな混乱が生じたり改善できなかった時は、その都度職員間で話し合っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800289		
法人名	医療法人社団壮志会		
事業所名	グループホームゆうゆう 2F		
所在地	〒859-4752 長崎県松浦市御厨町397番地10		
自己評価作成日	平成21年12月12日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は常に理念を共有し実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流も少しづつだが出来ている。挨拶運動や買い物などに行き近隣との関係作りに取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修等に参加している。実習や研修の受け入れる際、事前に打ち合わせを行い取り組んで配慮を十分に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2ヶ月に1回実施。状況報告・行事等の報告を行い、質問・意見・要望が出やすい様な雰囲気作りに配慮している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でホームでの取り組み、実態を伝え意見指導を受け協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束を行わないと言う事を認識し、入居者が安心して自由に生活が出来るように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な行為や暴言には注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んで認識している。必要な方には、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を明確に説明し理解・納得のうえ家族同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見・不満・苦情がある場合は、話し合いを設けて対応を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングで、気づきや利用者に関する事を話し合う機会を設け取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働くように努めている。年2回健康診断を行って健康管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修等に参加し、職員会議などで研修報告を行い、向上心を持てるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は少ないが、情報提供などの要望があれば支援している。研修・講習に参加できる様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状況を理解した上で、安心して生活が送れるように支援を行って取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、困っている事や不安な事などを一緒に考え信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から申し出などがあれば、受け入れ・支援が出来る様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から労って頂く事があり感謝する気持ちを理解し合い信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、ホームでの状況を細めに報告をし、出来るだけ面会に来て頂くように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのつながりを大切にし(面会・外出・電話)継続できる様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーで楽しく過ごせる環境作りを行い、利用者同士の会話や触れ合いが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されていても情報提供を行い、家族の方とも寄り良い関係作りが出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望・意見を出来るだけ受け入れ家族の協力を得えて支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の一人ひとりの生活歴などを把握し少しでも家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のリズムを把握し出来る事は手伝って頂き、職員も一緒に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者が中心となり職員全員が観察と気づきを共有し、その人の状態に応じた介護計画を立て状態が変わった時は、その都度見直を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を事細かく記載し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に対する利用者の要望として、職員が協力できる範囲で外出・面会等の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を行う中で地域・家族・消防との連携を取り安全な暮らしが出来るように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院である為、すぐに対応でき定期的に受診を行っている。家族が他の病院を希望される時は、家族の協力を得て受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問時に利用者の健康面の相談や助言・指導を受けながら適切な対応が出来るように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院である為、利用者が安心して入院ができるように情報提供や連携を取りながら病院との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方についても家族に説明と同意を得て、病院看護師訪問時に相談をし家族の要望を出来るだけ受け入れ支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体などで救急救命法等の研修がある時は参加しているが、急変時は母体に連絡し対応をしているが定期的には実践は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・消防団の方に協力をして頂き、年2回の避難訓練を実施している。非常用備品も準備できている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前で損ねる様な言葉かけをしないように職員がお互い注意し合って、利用者が安心した生活が送れるように配慮に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で、その人の能力に合わせ活動内容などを選択する機会を得られるように場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で自由に過ごし、楽しみや役割のある暮らしが出来るように支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	殆どの方が自分の好みの服を選ばれている、調整が必要な方には声かけを行って出来る事はして頂いている。散髪は、本人の希望する理美容院へ行かされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳などに気を配り食べやすいように工夫し、盛り付けにも工夫を行い食事に関心を持って頂けるように配慮している。片付けなどは、出来る方にはお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけ、献立作りにも配慮し食事やお茶の時間に出来るだけ水分を摂って頂くように支援している。夕食後にビールを飲まれている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は一人ひとりの口腔ケアの必要性を把握し、食後必ず声かけを行い出来ない方には介助を行っている。義歯の消毒・洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握し、さりげなく声かけ誘導を行い失禁がないように努め支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動などに心がけ便秘が酷い方は、病院・看護師訪問時に相談し指示を受け下剤などで調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱着時には、十分配慮を行いその人にあった温度調整・入浴時間を制限せず、ゆっくりと入って頂いている。シャワー浴を希望される方には、その都度対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ゆっくりと過ごせるようにフロアーにソファを置き、自由に休息が出来るように配慮している。夜間不眠の方には、病院に相談し眠剤を服用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から説明書を頂き、職員は薬の目的や作用・用量について理解し確認している。体調に変化が見られた場合、病院へ連絡する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週2回の挨拶運動や買い物に行かれる方には支援している。家事手伝いで洗濯物たたみ・おぼん拭き・掃除などを自分の役割の仕事と思って楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日はなるべくドライブ・買い物・散歩に出掛けるように努めている。家族の協力がある方は、ドライブ・食事に出かける事を楽しみにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自分で管理する事が難しく家族に同意を得て預かっている。買い物・外出時依頼があれば、その都度対応している。自分で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望されれば電話は、利用できるように対応している。携帯電話を所持されている方もおり、自由にかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーに季節感のある花を飾ったり、テレビの音量や室内の温度調整にも配慮し、過ごしやすい様に工夫し支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる個室がそれぞれあり、気の合った人との会話を楽しんだり部屋で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファ・テレビ・仏壇を置かれ安心した日々を過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止の為に利用者の活動を抑制せず、常に見守る事で活動的で安全な環境作りに努めている。		